



# おおみなみ

笑顔あふれる 大南

～自分もよく、相手もよく、みんなもよく～



令和7年度  
練馬区立大泉南小学校  
校長 田村 亜紀子  
令和8年 1月 7日  
TEL03-3922-1371

## 「これからの社会を生きる子供たち」

校長 田村 亜紀子

あけましておめでとうございます。令和8年の新春を迎え  
るとともに、今年度の最後の学期が始まりました。

今回は、10月の道徳授業地区公開講座において、玉川大学T  
APセンター教授 川本和孝先生からご講演をいただいた内容を  
紹介します。今年度は、3時間目に時間を設定したことで、より多く  
の方に聞いていただき、多くの保護者の方からご好評をいただき  
ましたので、改めて、皆様にお伝えしたいと思います。

今、「学習指導要領」の改訂がすすんでいます。学習指導要領  
は、概ね10年に一度、改訂されます。今後の日本を見据えたとき  
に、その将来を担う子供たちに、どのような教育をすすめていくの  
かという基本となるのが、この学習指導要領です。今回の改訂の  
核にあるのが、「自らの人生を舵取りする力」と「民主的な社会を  
育成する力」と示されました。それを川本氏は、「自分の幸せを他  
者と調和させながら築いていく力を、学校で育てていこうという方  
向に進んでいる。」と、分かりやすい言葉で置き換えて説明してく  
ださいました。ですから、学校は「民主的な社会を育てるための練  
習の場」であり、「子供同士のぶつかりや対立は、決して『トラブル』  
ではなく、『民主的な社会を育てるための大切な練習』なのだ」と  
語られました。さらに、「そこに大人が『どちらかが悪い』と線を引  
いてしまうと、子供たちは『異なる正義とどう向き合えばよいか』を  
学ぶ機会を失ってしまう」と続けられました。「『異なる正義の中で  
生きる力』をどう育てていけるか」、大きな命題です。

ここで、川本氏は「アンパンマンから学ぶ正義」として、次のよう  
な言葉を紹介されました。「正義のための戦いなんてどこにもない  
のだ。正義はある日突然、反転する。逆転しない正義は献身と愛だ。  
目の前で餓死しそうなのがいるとすれば、その人に一片のパンを  
与えること。」これは、アンパンマンの作者、やなせたかしさんの言  
葉だそうです。やなせたかしさんは、戦争を体験され、「それまで  
『正義』と思って戦っていたが、敵と言われる人々にも家族があり、  
守りたい『正義』がある。敗戦後は、自分たちが思っていた『正義』  
すらも、確かなものではなくなる。」と。そして、「正義の反対は悪で  
はなく、もう一つの正義」ということでした。

つまり、「正義は相対的である」ということです。しかし、すべてが  
「相対的」ではありません。どんな場合であっても、人の尊厳を傷  
つけ、命を軽んじることはしてはならない「絶対的な悪」があります。  
一方で、人を助ける行為だけは普遍的に正しい「絶対的な正義」

と言えます。私たちは、「絶対的な正義・相対的な正義・絶対的な  
悪」の中で生きています。

学校という小さな社会の中でも、子供たちは様々な「正義」をぶ  
つけ合っています。「こっちが正しい」「そっちが間違っている」と、  
ぶつかることもあります。でも、それはほとんどの場合が悪いことで  
はなく、「異なる正義が存在することを学ぶ場」なのです。大切な  
のは、その中で「相手にも(彼なりの)理由がある」と想像できるこ  
と、そして「困っている人を助ける」ことだけは譲らないという姿勢  
を育てること、これこそが「道徳教育の本質」であると説かれました。  
さらに、子供たちの世界で多く見られることとして、「『自分は正  
しい』と思って発した言葉が、誰かを深く傷つけてしまうこと。『正  
義の名のもとに』相手を攻撃してしまうこと」を挙げられました。こ  
のとき大切なのが「どこまでが相対的な正義で、どこからが絶対  
的な悪なのかを見極める力である」と。つまり、「相対的な正義を  
認めながらも、『人の尊厳を傷つけない』という絶対的な価値を守  
ること。これこそが、次の時代を生きる子供たちに求められている  
『民主的な力』である」と続けました。そういった意味でも、道徳の  
学びは「正しいことを覚える時間」ではなく、「自分にできること  
を見付ける時間」なのです。学校は社会の小さな縮図です。そこには、  
子供一人一人の正義がぶつかり合っています。

「相対的な正義」

⇒「自分は正しい」と思っていることが、  
別の子には納得できないこともある

「絶対的な悪」

⇒人の尊厳を傷つけること、命を軽んじること

子供たちは、日々、この二つの間で揺れながら「どこまでが意見の  
違いで、どこからが人を傷つける行為か」を学んでいます。こうし  
た経験を積み重ねることで、「自分も社会の一員として役立ってい  
る」という自己有用感を育てます。そして、「相手の正義を理解しな  
がら、自分の行動を考える力」が、将来、民主的な社会で生きる力  
へとつながっていると語られました。最後に「『正義とは何か』『悪  
とは何か』を考え、『自分にできることは何か』を見付ける経験の  
積み重ねが、子供たちの生きる力をつくる、それが道徳教育の本  
質です。」と締めくくられました。

子供たちにとっては、学校が「社会」です。様々な学びを通して、  
本当の社会に出るときに必要な力を身に付けられるよう、邁進して  
まいります。

### 「キャリア・パスポート」とは…

キャリア・パスポートは、「児童が自分の学習状況やキャ  
リア形成を見通したり、振り返ったりすることで、自身の変  
容や成長を捉え、自己のキャリア形成に生かす」ものとし  
て、令和2年度より取り組み始めたものです。

言い換えると、キャリア・パスポートは、「子供が、学校  
等での様々な活動場面の中で、自分の成長の様子を自分で見  
つめ、将来の『なりたい自分』を考えたり、近づいているか  
を振り返ったりしよう。これらを蓄積し、将来の自分が過去  
の自分と対話することで、『なりたい自分』を高めたり見直  
したりしていこう。その中で、『よりよい生き方』『自分ら  
しい生き方』を見付けよう。」とするための大切な資料とな  
ります。このキャリア・パスポートは、小学校から高校まで  
の12年間、続けていきます。

このように、キャリア・パスポートは、子供自身による自  
分の成長の記録と言えます。そして、このキャリア・パスポ  
ートには、子供の成長を支える大人の責任として、大人も一  
緒に記録をしていきます。

### 「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」のお知らせ

東京都教育委員会では、子供たちが豊かな心を育むとともに、自らの感覚  
や活動を通して実感することにより理解を深め、新たな気付きを得られるよ  
う、都内の学校を対象に「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」を実施して  
います。

大泉南小学校では今年度、KMK文化芸術企画（代表 林家まる子氏）協力の  
もと、ふだんなかなかエンターテインメントにアクセスできない子供たち  
に、「生で」「間近に」「本物の」文化芸術を届けていただきます。

会場の関係上、来賓の方のみの参観となり、保護者の皆様にご覧いただけ  
ないのは残念ですが、お子様に当日の様子をお聞きいただければ幸いです。

日 時	令和8年1月13日(火)	午前9時35分～午前11時30分
出演者	司 会	林家まる子
①	伝統芸能 太神楽曲芸	翁家勝丸・丸果
②	オペラとピアノのリサイタル	Sayaco(歌)・古家杏子(ピ アノ)
③	コンサート	歌のお兄さん